

世界女子ペタンク選手権大会に参加して

日本女子選手代表 井上まち子

今回の世界女子選手権はフランス；モントーバン市で開催されました。世界各国から43チーム参加し、アジア圏からはタイ・カンボジア・日本と3カ国のみでした。

会場は、広い客席付の屋内施設で、テランは花崗岩のような大きな砂利が深く敷き詰められた上に細かく砕いた砂利が2層に敷き詰められたもので硬く仕上げたものと、土を転圧しアンジレーショが酷くその上に砂利を撒いたテランの2種類があり、それを万遍なく移動しながらの試合進行でした。時間制限（1時間）プラス2メヌ、スイスシステム導入でした。



初戦はアットランダムにコンピューターでシャッフルして選んだ相手がなんとタイでした、運が良いのか？悪いのか？ティールの制度は予想していましたが、砂利テランでのタイのポルテの正確さに翻弄され一度もビュットを取れずに終わった。決して手も足も出ないわけではなかったが最終的に点を取れなかった事がとても残念でした。



2戦目はイタリア、苦戦しながらもリード出来た。時間コールがあり 11 対 10 で 1 点リードだった。プラスメニューに入りイタリア追加点で 11 対 12 と逆転された。次のメニューに入ろうとした時、イタリアからクレームがあり試合が中断された。内容は時間コールから 2 メニュー終了したとの指摘。納得が出来ず審判の判断を仰いだ。最終的に審判とイタリアによる押し問答の末、イタリアの勘違いで日本には落ち度が無くもう 1 メニュー開始となったが、この中断ですっかりリズムが崩れ逆転負けになった。何なんだろう？相手の謝罪もなく本当に悔しい思いがこみ上げた。しかし敗因は自分達の冷静さに欠けた事でもある、反省です。



3 試合目はハンガリー、この試合は 11 対 7 でのリードからまたミスが多くなり相手に大量得点を許し逆転負をしてしまった。そして 4 試合目は不戦勝で初日を終わら

した。

翌朝 8 時半から 5 試合目のラトビア対戦、何としても勝たなければとの思いだった。

テランはアンジェレーションの強い土のテラン、投球をドウミポルテよりやや低めに決

め、惰性での転がりをしっかり読むようにした。結果、上手くいき 1 勝できました。

最終的に 2 勝 3 敗の戦績で残念ながら予選敗退。

ネイションズに移り 1 回戦ニュージーランドに勝利、これはティールもポワンテも成

功球が相手より少し勝っていたという勝利。2 回戦モロッコに打たれて打ち返し、寄

せての攻防でしたが最後に力及ばずに 11 対 13 で敗れ、2 回戦敗退で終わりました。

今大会は出発直前のメンバーのアクシデントもあり、チーム 4 人体制の必要性痛感し

ました。また、もう少しのレベル向上で夢が届くかもしれないという小さな期待の持

てる女子世界大会でした。戦った相手が優勝チームのタイ、上位常連のイタリア、モ

ロッコと学ぶ事の多いチームだったのも幸いと考えます、得点で見ればあと少しでし

たが、投球の選択の確かさや確率の高さをあらためて感じ、日本の不足を実感しまし

た。メンバーが全てどのポジションも出来る事は基本、其の上で最も得意か調子の良

さで試合を組み立てている、例に言えばタイ、決勝までポワンテをしていた選手が、

ティールの選手が外し始めた途端、ミリューがポワンテになりティールがミリュー

になりポエワントゥールがティールをした。どうなるだろうと思っていると見事にテ

ィールはカロを連発、精度は半端ではない！これが私の心に深く残った。目指すべき

目標が突き付けられた気がしました。国を背負った戦いにふさわしいタイの選手達に

感動をしました。そして国全体のバックアップ、組織の強さが背景にある事も大きい

のではないのでしょうか。

シューティングでは今泉君子さんが堂々のベスト8に検討してくれました、32点のベストスコアを出し2次予選通過、決勝ラウンドに残った8人が2人ずつでサドンデス対戦、チュニジアの選手と対戦し30：20で敗退、しかし集中力を切らさず本当に素晴らしかったです。



今回は優勝がタイランド、そして3位にカンボジア、シューティングではカンボジアが優勝とフランスの地でアジアの存在を大きくアピールし、ヨーロッパの人々がアジアに対するペタンクの見方を大きく変えた事もお伝えしておきます。従ってそのアジアの中の日本はさらなる発展を考えて行かなければならないと思います。

最後に私たちが派遣する為に本部協会の多大なるご努力とご尽力に、また、応援していただいた沢山の会員の皆様に心より感謝を申し上げご報告とさせていただきます。

